報　道　〈第三種郵便物認可〉　第1912号

中部経済新聞社

名古屋モーターショー開催
ラッピングカーコーナー盛況

中部地区最大規模の自動車イベント「第20回名古屋モーターショー」が、昨年11月23日から26日まで、名古屋市港区のポートメッセなごやで開催された。主催は中部経済新聞社、東海ラジオ放送、中日新聞社、中日スポーツ、東海テレビ放送。

このショーは、東京モーターショーに続く自動車イベントとして二年ごとに行われている。今回は、2・3号館に第45回東京モーターショーに出展された参考出品車（コンセプトカー）、最新市販車等、国内外二輪・四輪メーカーの計42ブランドが集結。屋外会場では、「スーパーカー同乗試乗会&体験会」も行われた。来場者は前回を上回る20万5900人だった。

また、20回目となる開催を記念し、広報大使にSKE48の松井珠理奈さんが就任。トークショー等が行われた。

1号館特設会場には、今回も『ラッピングカーコーナー』を設置。塗装ではなく、フィルムによってカラーリングするドレスアップさせたスーパーカー、軽自動車までラッピングした車両を多数展示した。また、子供からプロが自由にラッピング参加できる「HEXIS バトル」（計10回実施）のほか、子供を対象にした「カーラッピング体験ちびっこ広場」は連日盛況だった。

話題を集めたカーラッピングの実演

業者懇親会は全国から約60人が参集
JCWA

ラッピングカーコーナーの主催団体である日本カーラッピング協会（JCWA、苅谷伊会長）は、「第2回日本カーラッピング協会懇親会」11月25日午後7時から、名古屋港のセントグレース大聖堂&ゲストハウスで開催、全国各地から約60人が参集した。

懇親会は吉兼典男理事の司会で進行。菅野達生理事の開会挨拶に続き、苅谷会長は「いま、世界で一番凄い職人は車のパーツをばらさないで、さもばらしたかのように、きれいにラッピングするとともに、貼るスピードが日本人より数倍速い。我々も速度はもちろん、ばらさないでラッピングする技術を高めないと世界に後れを取ってしまう。そして、その領域に達した会社が数年後、この業界の主導権を握るのではないか。JCWAに入会することで、よりレベルアップして頂き、会員同士で情報交換に努めて頂きたい」と述べ、飯村將人理事の乾杯で開宴。

挨拶する苅谷会長(上)、全員で記念撮影

宴はショー内で行われた会員企業（11社）のブース出展動画が流れる中、苅谷会長が出席役員を紹介。服部直己副会長は2018年の活動方針について、「1月12日から14日まで、幕張メッセで行われる東京オートサロンに当協会は昨年に引続いて、ブース出展する。また、皆さんがステップアップできる様々な講習会を予定しているので、ぜひご参加頂きたい」と語った。

協会の入会メリットにも触れ、「入会すると『協会は何かしてくれるの?』とよく聞かれるが、協会が何かするわけではない。会員は年会費（6万円）を払い、各種事業に参加する権利が得られる。そして様々な活動に出席し、いろんなことを吸収して頂きたい。今日の懇親会で何か一つでも収穫を得られると、主催者として大変嬉しい」とまとめた。

その後、参加者の紹介・挨拶などが行われ、最後に山口孝二理事の中締めで9時に閉会した。

◇

JCWAは「第3回日本カーラッピング協会懇親会」を13日(土)午後7時半から、千葉市美浜区のホテルスプリングス幕張内で開催する。会費（一人あたり）はJCWA会員が6000円、非会員は7000円（税込み）で、申込み締切りは10日(水)まで。

【問い合わせ】JCWA事務局（☎03・6277・3281）

「鉄道技術展」に525社が出展
フジサンケイ

鉄道関連機材やシステムなどを集めた総合展示会「第5回鉄道技術展2017」が、昨年11月29日から12月1日まで、千葉市美浜区の幕張メッセで開催された＝写真。主催はフジサンケイビジネスアイ。来場者は前回を上回る3万2283人だった。

同展は鉄道関連の技術や製品、サービスなどを行う海外企業を含め、525社・団体が出展。車両や運行管理、旅客設備、土木関連分野を中心に展示された。

また、併催事業として基調講演、特別講演のほか、製品技術説明会が多数行われた。

◇

「第3回レイルウェイ・デザイナーズ・イブニング」は、11月30日午後2時から幕張メッセの国際展示場内の会議室で開催された。主催はレイルウェイ・デザイナーズ・イブニング実行委員会、フジサンケイビジネスアイ。

このイベントは、鉄道に関連する様々なデザイナーが、所属や役職を超えて一堂に介し、交流するもの。今回のメインテーマは「鉄道とコミュニケーションデザイン―『サイン』からひも解く情報環境の未来」。情報デザインを「サイン」というキーワードでひも解きながら、鉄道事業における『情報環境』のあり方を議論した。

第1部は「鉄道とコミュニケーションデザイン」の演題で、㈱GKデザイン機構の山田晃三氏（取締役相談役）が講演。

引続き、パネルディスカッションとなり、3人のパネラーがプレゼン。まず「国際的視点から見た、鉄道とサインの公共性」のテーマで、㈱アイ・デザインの児山啓一氏（代表取締役）が入口、出口、トイレの色彩など、国内外の事例を交えて説明した。

次いで㈱ソーシャルデザインネットワークスの定村俊満氏（代表取締役社長）は、「ユニバーサルデザインの実践とサインの役割」について、同氏が手掛けたJR西日本新幹線博多駅や、福岡市営地下鉄七隈線のサインシステムを語った。

最後に「鉄道の課題を解決するコミュニケーションデザイン」と題し、㈱ジェイアール西日本テクノスの大森正樹氏（車両事業部設計部長製造設計室長）が、JR西日本

新ものづくり展 658社が集結
全国中央会

全国中小企業団体中央会（全国中央会）は、ビジネスマッチングを目的とする国内最大規模の展示会「中小企業 新ものづくり・新サービス展」を12月6日から8日まで、東京・有明の東京ビッグサイトで開催した＝写真。

同展は、「ものづくり補助事業」を通じて、全国の中小企業が生み出した新製品や技術、サービスのビジネスマッチングを目的にしたもので、今回は658社が出展。金属